

# おひさま

春号

生活協同組合・さいたま高齢協

〒359-1103 所沢市向陽町 2001-3

TEL : 04-2941-2111

fax : 04-2941-2099

http://saitamakoureikvou.com/



## 春光うらかな季節を迎えてはいるが？

2度目の緊急事態宣言もその効果は限定的だった。コロナ疲れで、私たちの中にも慣れや慢心を厳しく律することができない処がある。国民の7割が免疫を持たないと鎮静化しない、というのは真実だろう。ワクチン接種がその決め手になるはずで、副作用は怖いにしても、国内で接種がはじまったことは明るい材料である。しかし、ここでも欧米を中心に「買占め」的な行動がとられている。バイデン大統領は国際社会との協調と断りながら、国内でワクチンが行き渡るまで輸出をしないと自国優先を明言している。地球は一つであり、ウイルスに国境はない。地球規模でひろがる感染をどう抑えるつもりか、各国指導者にも見識が問われている。

様々な視点から震災を掘り下げる企画を行った。多くの方が10年前のあの日を思い出されたことだろう。津波に続く恐怖が原発事故だった。全く電源を喪失した福島原発がメルトダウンし、水素爆発を起すという悪夢のような事故だった。放射能汚染という原発がもたらした未曾有の事態が今も被災者を苦しめている。当時の政府は東京を含む東日本が壊滅するという最悪のシナリオも想定していた。それほど重大な事故を経験しても原発への依存を辞めようとしない日本。省エネが進み既に電力は原発なしで足りている。原発に依存しないことを世界に先駆けて宣言しなければならなかったはずなのに。多くの犠牲の上に私たちは何を教訓としたのだろう。

いる。産業革命以降、私たちは豊かな生活を求め、地球環境に深刻な影響を与えてきた。コンクリートや廃棄物で地表を覆いつくし、海にはマイクロプラスチックが大量に浮遊。中でも飛躍的に増大した二酸化炭素。こうした問題に気づき何もしないことは、それ自身が未来の人々に対する加害者であることだ。本書の主張に多くの人々は共感するだろう。日本には緑豊かな山があり海があり、四季折々の風景や食がある。しかし、これも永遠には続かないかもしれない。春光うらかな季節を迎えてはいるが、少し息苦しい。理事長 坂林哲雄

東日本大震災・福島原発事故から10年。マスコミは3月1日の鎮魂の日に前後して



### 人新世の資本論

著者：齋藤幸平（大阪市立大）

集英社新書 1,122円



# 今、そして“未来”

〔東日本大震災から10年〕

今、生きて思うこと

宮城高齢協・理事長 丹野幸子さん(石巻)

いつもの何気ない日常の隣に、まさかあんな大震災が恐ろしい口を開けていたとは想像もしていませんでした。不意打ちを喰らって私達は悲惨な奈落の底に落ちました。

「あの時」の被災状況は年代ごとに、またその時住んでいた地域や場所、地形、被災時間によって異なる、違いの程の悲しみと辛酸がありました。

宮城高齢協では、大震災の翌年石巻に支援の拠点「ひなたぼっこ石巻」を開設しました。地域の人達は少しずつ「あの日」の過酷な被災体験を語りはじめ、互いの傷みを分かち合いながら新たな生活に踏み出しています。

この場所で現地の特産品を全国高齢協ネットに流通する活動や全国高齢協の皆さまから届けられる物心両面の支援の受け皿

としての役割も果たして来ました。さいたま高齢協の田中さまからは石巻の生花店と提携し、月命日に40束の鎮魂の支援花を送って頂き、それが縁で今は東京絆プロジェクトから仏花が届ける支援の輪が広がりました。花を抱えて有難くてみんなで泣きました。

また、全国高齢協連合会の復興支援ツアー「被災地を視る、聴く、感じる、それを伝え、運動に結びつける」は、全国の仲間が被災地に目を凝らし見つめてくれることが、立ち上がる私達の大きな力になりました。茫然自失のなかで、真の復興とは何か、その主体者は誰なのか、焦点が定まらない私達を覚醒に導いてくれる企画でもありました。福島視察では原発事故の深い後遺症、底知れぬ悲劇を目の当たりにし何度暗澹た

る思いに襲われたことか、行く度にメルトダウンが起きた時の衝撃と絶望が蘇りました。原発事故は他人事ではなく、大震災で未曾有の被害を受けた女川町では先ごろ原発の再稼働を決めました。胸かきむしられる思いです。事件や悲劇を他人事として自分の身に引き付けて想像することを辞めた時に風化は始まります。そして人間は忘れやすい。だからこそ悲劇を自分の胸に刻印する必要があるのだと思います。

こんな大震災に出会ってしまった人間には出会った者らしい生き方があるとすれば、私はこれからどう生きていきたいのかと考え込んでしまいます。

16歳の語り部は「災間(災害と災害の間)を生きる」私達は被災の教訓から多くのことを学んでほしい、そのために僕たち被災者は語る責任があると言います。あの通りの道を進んでいます。当時子どもだった学生は「年代、住んでいる地域、時間など個々人

に合わせた細やかな避難計画を作成する必要がある」と提案しています。10年を経て自分達の未来を自らの手で創りあげようとする青年の活躍が目立ちます。その焔めく姿は希望です。私はいま、その若者たちの真直ぐな希望を応援する運動に参加したいと願っています。





## 東日本大震災から10年

## あの時 それから

## 〔東日本大震災から10年〕

## 被災地に向き合った日々

宮城高齢協・顧問 永野三男さん(仙台)

東北地方太平洋沿岸部を中心に12都道府県で2万2千人余の死者と行方不明者となりました。被災地の岩手・宮城・福島の沿岸地域は、各自治体によってかさ上げによる街づくり、海そばにいて海の見えない大防潮堤による街づくりと様々に復興が進んだ。自然災害に対して、どんな街にするのか、いかに住民との合意作りが大事であるかが見えてきます。そもそも超巨大地震に人間が作る鉄とコンクリートの防潮堤で、安全が担保されるはずがありません。

一方被災した人は、被災内容や、被災前の仕事、生活、資産などで現在も苦しんでいる人が沢山います。被災地沿岸部の人口減少と仙台一極集中、仙台市内でも山間部では人口減少と農地の放置地域が進行し、自然破壊が進んでいます。

福島原発事故は何一つ解決せず、廃炉作業の見通しもなく、故郷に帰りたくても帰れない状況で、今や国家的人災となっています。わが国で、原発事故については、10年経っても加害者が認定されず謝罪もされていません。

10年という歳月、私は後期高齢者に認定され、当時小学2年生の孫は、4月から大学生となりました。私はこの間、何をしていたのか。社会や政治は国民が望むほうに変化したのでしょうか。

私のかかわった宮城高齢協を振り返ると、求職者支援制度の取り組みや放課後等児童デイケアなど事業拡大を行ったが、社会保障の改悪、数年前には事業を担う人材育成が遅れ、事業を縮小せざるを得なかった。

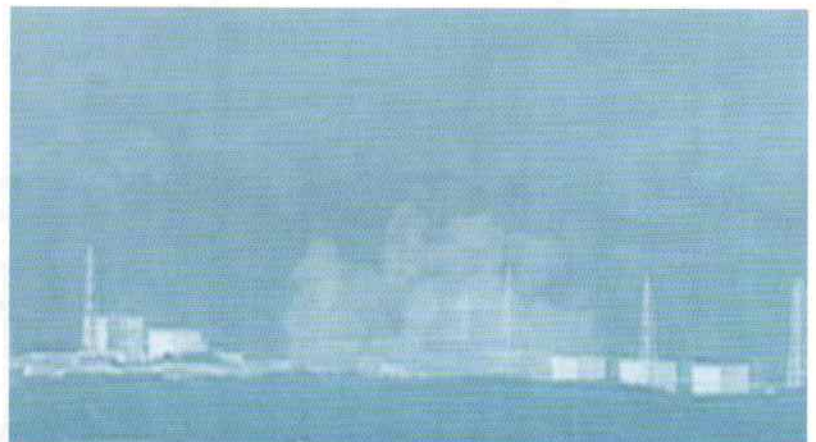
10年前の3月11日、当時

のいわば「黒革の手帳」が見つかった。当日は東京出張だったので、仙台市沿岸部の大津波を唾然としてテレビを見ていた。当日は上野に野宿。新潟・山形経由で仙台に帰ることが出来たのは4日後だった。

事務所には全国から沢山の支援物資が届けられていた。こうした動きに宮城高齢協は、感謝とともに困惑していた職員と理事が一体となり、支援と復興への取り組みを開始する体制が出来ました。

全国の皆さまのおかげです。ありがとうございます。

被災者に、全国から寄せられた物資を提供するにも、ガソリンがないのでジーゼル車を借用、田尻で軽油を調達しました。また、介護が必要なガソリンは生協本部で連携し調達しました。3月17日に被災地石巻支援に入り、電池・歯ブラシ・下着・その他沢山の品物を車に乗せ、現地地域を回り届けました。特に重宝されたのは電池でした。



大量の瓦礫に覆われた現地の状況に思わず目を伏せたのは私だけではなかったでしょう。また、福島では誰もいない家々が並び、サル・イノシシ・豚が増え、イノブタという耳慣れない動物も出現していた。原発避難者は、国内難民といえます。

これからも復興支援のあり方が問われ続けるのではないのでしょうか。10年前の出来事がいまだに脳裏をはなれません。



## うがい・手洗い・三密回避 コロナで変わる私たちの暮らし

### しなやかに

小坂橋恵美子さん

(東邦大学健康科学部・理事)

校門前で写真を撮る新入生の行列、待ち受ける入部勧誘の学生たち、大教室での講義、大音量で賑わう学生食堂など、昨年度までは普通の光景でした。校門での入構のチェック、閑散とした春のキャンパス、自宅で受けるオンライン講義、アクリル板越しで会話を控えた学生食堂での食事など新しい対応が始まりました。

教室で行う講義は、授業の動画を作り配信する方法や、オンラインでの授業へ変更になり、動画づくりに四苦八苦し、伝わっているか不安になりながら、顔出しのない学生のアイコンが映るパソコンの画面に語りかける授業をして参りました。寝不足の日々でしたが、ITに詳しい教員の手厚い支援に感動し

たこと、惜しげも無く情報をくださった懐の大きさに感銘を受けたこと、オンラインツールを使つてのグループワークやYouTubeの教材への活用など、新たな挑戦が自分の視野を広げる契機となり、経験値を高めたことは、このCovid-19(新型コロナウイルス)の感染拡大に遭つたからこそともいえます。

なかでも、学生たちの持つ大きな力を改めて実感できたことは最大の収穫です。外出自粛でオンライン授業が続いたとき、学生たちは自宅で筋トレを始めた、以前よりも積極的に家事に参加したり、小さな楽しみややりがいを見つけてながら粛々と日々を過ごしてしまつた。全国にはキャンパスに入ることがかなわない学生もおり、心が痛むばかりですが、これまでと違う現実を受け入れ、頑張る学生に感心しきりでした。しなやかな学生たちと過ごせることに感謝しつつ、前向きな気持ち忘れずに、一日も早い収束を願うばかりです。

## 娘の出産

鶴沢悦子さん

(所沢・副理事長)

昨年の春先、娘から第二子の妊娠を告げられた。一人目

と同じように里帰り出産を希望しているのだろう。秋口の仕事はかなりセーブしないといけないなど、私は頭の中で仕事の調整を考えていた。

それから間もなく、一度目の緊急事態宣言となった。娘は、精神科の相談員をしている。精神科の中でコロナ病棟があるのは、県内でも少な

く、孫の職場がそれにあつた。孫の保育園は自粛期間となつたが、娘は医療職、その彼は県の危機管理対策にあつていたため、保育園の受け入れは継続された。孫はいつもと保育との違いを感じながらも素直に通つていた。

妊娠中なのにコロナ患者との接触は大丈夫なのか。娘の住む市内では、あちこちでクラスターが発生している。心配で孫だけでもあずかるのかと伝えたが、感染対策は職場

も保育園も家庭でもしつかりしている、孫も保育園に行けるだけでも気分転換になつているからと断られた。しかし、出来れば夏休みには少し長く帰りたいと言つていた。

緊急事態宣言が解除され、夏には娘が孫と里帰りに来た。お産はこちらでするものと思つていたが、コロナ対策のため通院先の病院で出産するということ。同じ県内なのにと少し不安になつた。出産には

家族の立会いは禁止、面会は退院日に配偶者のみと言われ、新生児を抱く事を楽しみにしていた私の夢は消えた。

秋になり出産が近くなると、逆子と告げられた。それから逆子体操などで正常頭位に戻すことを試みたが効果なく、ここでもまた、コロナの為に産院リスクを少なくしたいと

妊娠34周での帝王切開となった。出産が早くなったことで、私の仕事の調整が上手くいかないかもと伝えたところ、公務員の娘の夫はすぐに育児休業を申請した。しかし、そのことに一抹の不安を感じている、私と娘がいた。

出産後、少し落ち着いたところで娘の家に通うことにした。主夫となつた彼は、かいがいしく洗濯物を干したり、掃除をしたりとそれなりに家事をこなしている。しかし、洗濯物は洗濯機から出したままピンチに止めているので皺くちや、新生児の服もなんだかごわごわしていて気にな

る。掃除は、自分の部屋だけきれいに片付いているが、孫のおもちゃなどはすべてリビングに積み上げられている。

二人の関係もなんだか険悪な感じ、洗面所で手を洗つてみると、彼氏が来て、「ずっと機嫌悪いんですよ、色々やつて

るのに」と小声で訴えてくる。もともと不器用で要領が悪く、脳みそまで筋肉のサッカー青年というイメージの彼氏だった。「動物でも出産後のメスは気が立っているもの、し

ようがないとあきらめなさい」とびしゃりという、唾然とした顔で私を見ていた。私としては娘の彼氏と云えど、人のメンタルホローなどはしたくない。それに、私も娘と同様彼の家事は気に入らないし、やってやつてるなん



て恩着せがましい態度ならしてほしくない。とはいえ、他人の家庭なので、彼の縄張りや荒らさないように、お惣菜を持っていく程度にとどめた。また、彼と上の孫の休養日を設け、その日に私が行き、娘の愚痴を聞いたり孫の面倒を見るようにした。

コロナ禍の中では、思うように外出もできず、孫へのプレゼントは全てアマゾンに頼った。娘も育休に入り、ほとんどの商品を通販で購入するようになった。児童館なども予約制の上、ソーシャルディスタンスで子ども一人ひとりの遊ぶ範囲が決められ、他のママ友と知り合う機会もない。コロナ禍の中、コミュニケーション不足でストレスをためる母親は多いのだろう。二度目の緊急事態宣言となり、閉塞感や貧困などで子どもを巻き込む事件が増えている。安心して子育てができる社会となるよう、一時も早いコロナ感染症の終息を願う。

## 元気な高齢者は 介護する側になろう！

亀井隆さん(生協総代 三郷)

私は都内で協同組合の仕事をしてきました。65歳でリタイアして、さいたま高齢協の組合員になり昨年から総代をしています。生協総研の「2050年研究会」が提言した『2050年超高齢社会のコミュニティ構想』の「集いの館」に興味を持ち、いつか実現してみたいと思います。地域の仲間と調査活動をしています。

の受講と事業所での実習ができるものです。私は早速申し込しました。1月下旬からスクーリングと実習を始めて3月末に終了。初任者研修の資格を取得し、4月から介護事業所で働く予定です。

これまでもずっと事務職畑でしたが、介護職は全く別の世界でした。

昨年、さいたま高齢協の岩槻事業所の運営に、私はこれまでの経験をもとに少しばかりサポートさせていただきました。しかし、一般論は言っても介護事業の実際を知らないと思いましたが、それは難しいと思いました。

初任者研修の理論編では、介護保険制度、介護におけるコミュニケーション技術、老化の理解、認知症の理解、障害の理解などを学びました。

老化による身体機能の低下や認知症などは、いずれ誰にも訪れることなので、知っておいていた方がよい知識だと思えました。知っていれば、どうしたら健康寿命を長くするかの対策がとれます。

そんな折に偶然、三郷市の広報に「介護職チャレンジ」説明会の案内があり、参加してみました。埼玉県が実施する介護職人材を養成する助成プログラムで、初任者研修

実技編では①家事援助、②移動・移乗介助、③入浴介助、④排泄介助などのトレーニングを行いました。

初任者研修では、身体介助や生活支援だけではなく、利用者の人権と尊厳を守ることに、その人らしい生活(Quality of Life)が送れるように支援していくこと、そして、利用者ができることを伸ばす自立支援が強調されていました。

八潮市の事業所での実習は日勤で、デイサービスでの食事、排泄、体操、レクリエーション、記録などを学びました。1人前になるにはどのくらいかかるだろうかと思いません。この事業所は、小規模多機能型の地域密着型サービス(訪問、デイサービス、ショートステイ)で、周辺に住民

票のある方しか入所できませんし、最大29名です。ほぼ毎日、この29名の利用者と接することになるので、言わば大ファミリー(家族)のようです。みんな自分の父母か祖父母のようには思えば、親しい介護ができそうです。地域密着型サービスは、さいたま高齢協でも検討の価値があると思いました。

団塊の世代が75歳以上になる2025年の超高齢化時代に果たして、十分な準備はできているでしょうか。はなはだ疑問です。介護事業所は職員の入れ替わりも激しいと聞きます。若い人が一生の仕事にするには、やりがいはあるとしても、給与や労働条件は他業種と比べて低いといわれています。介護分野は様々な課題があります。たには解決できないでしょう。ただ元気な高齢者で、すでに年金を受給していれば、それほど生活に困ることもないので、介護サービスの分野で貢献できるのではないかと思います。超高齢化社会を支えるためにも、私のように介護職にチャレンジしてみませんか。





# 「よい仕事」研究・交流集会(介護実践から)

12月17日(木)

日本高齢者生活協同組合連合会 第2回全国研修会

## 大阪高齢協

ほつとステーション東大阪

〔報告〕西田寛子さん

### 職場内での多職種連携

①女性が長く働ける職場作りをモットーに「職員個々人の背景をみることを大切にして個別面談を実施し、役割や仕事量を定める。②部門や職種の垣根がないこと 以上2点のことが「よい仕事」につながっていると報告があった。

ほつとステーション東大阪は、常勤5名(ケアマネジャー12、サービス提供責任者1名、介護職員2名)と非常勤スタッフ10数名で運営している。職員それぞれが、子育てや家族の介護、自身の体調のことなどの様々な生活環境に身を置いているので、それ

を認め合い助け合うことで、一人一人の仲間を大事にしようと取り組んでいる。例えば、子連れ出勤可、時短・時差出勤可など。個別面談においても職員から所長への相談もこまめにあり、コミュニケーションツールとしてLINEのグループラインが大いに役立っている。

一人の利用者のケア・支援に対して、利用者には他団体の他職種の方が関わっているので、職員誰もが多職種連携の主体者として連絡調整に当たっている。情報共有は定例の会議で確認をするだけでなく、グループライン等を活用してリアルタイムで職員全員が情報共有ができる環境が出来ている。「垣根がない」ところが事業所の特徴で、「誰でも対応ができる、職員一人一人がケアマネジャー」という

気持ちで支援にあたることで、自分の職責の範囲以外の視点でも考え、気づきが生まれ、一人一人の成長になっている。この経験が、相談件数の増加や新規依頼にもつながっている。

当初は職責の範囲での支援が出来ていれば役割は果たしている。それでいいのではという意見があった。しかし、実際の利用者の変化を目の当たりにして「次はこれをやってみよう」という職員の変化もみられ、会議は「あれはできないか、これはできないか」と活発な意見交換の場に変わった。利用者のニーズや困り事を知る中で、「まずは試してみる」ことを進めている。

抱えている課題についても助言や協力を仰いで、個別支援に繋げている。またコロナ禍で活動が少なくなっているが所長兼ケアマネジャーである西田さんは、現場によくムチヤぶりをするとのこと。

「これ、出来ないかな……」職員もそれに応えチーム全体で取り組む。利用者の変化に気づける感性も養われスキルが格段にアップするし、よい仕事をしているという体感も持てているのだと思う。

認知症ケアに対して、利用者自身だけでなく家族も支援対象として、そのニーズに配慮することが使命であると捉えている。それが周囲に認知させていることが経営にも影響しているのではないかと、また会議のあり方について、8割は利用者支援に、2割は事業所の経営方針について時間を



費やしている。細かい日々の情報共有はグループラインで共有し、相談・連絡を頻回に行っている。支援開始から解り決ままでのプロセスを皆が視える状態なので円滑にできていく。職員一人一人が垣根なく行うことに至るまでの取り組みの工夫はどうしているのかとの問いに、他事業所への営業活動や近隣の地域団体の会合等に所長だけでなく、職員も数ヶ月にわたって連れて回り、参加することで慣れていく環境ができていったと回答をいただいた。



## 第16回総代会の開催について

日時 5月30日(日)14時~16時

場所 所沢まあち

- 議題 ①2020年度の活動のまとめと決算  
②2021年度の事業計画と予算  
③役員補充

## 21度の事業計画の骨子(案)

高齢協運動の基本的な構え／「元気な高齢者がもっと元気に」「一人ぼっちの高齢者をなくそう」「支えられる存在から社会を支える存在へ」というのが高齢者協同組合の基本的なスタンス。こういった地域社会を目的につくられた生活協同組合である。事業計画はこうした目標にむかって検討されることになります。

### ■事業経営

- 経営に関する基本は、各部門で働く組合員(職員)が①数字に関心を持ち、日々の活動と数字の関係をつかみ、経営改善に必要な課題に取り組む。②ケアの質の向上が本質であり、選ばれる事業所をめざす。③仲間の仕事への誇りと団結力を高める。リーダーの姿勢-定例会で職員の意見をしっかり聞き取り、事業活動への主体的な参加を求める。
- 3部門の一体感を重視した事業経営に取り組む。
- 21年度の経営数字の目標は全部門の黒字化。

○会計実務の合理化

### ■組合員活動-社会参加のための取組

- コロナ禍の中でも停滞させない工夫
- 地域で必要とされる仕事おこし

### ■広報活動の充実

- おひさまの発行 ○ホームページのリニューアル
- 高齢協の将来構想 中長期計画の検討

高齢社会となり地域の状況は老老世帯・単身世帯・日中一人の世帯が多くなり、近所のつながりも希薄になっています。こんな中、以前から何ができるのかと思っていました。住み慣れた町で長く元気で生活ができ、楽しく過ごせる場を作ろうと、主に向陽町地域の方々にお声がけをしています。

一緒にお茶を呑みながらおしゃべりをして一時を過ごしませんか!

● 日時 第2、第4木曜日 13:30~15:30

● 場所 所沢まあち「会議室」

● 参加費 お茶代100円(行事の時は実費徴収)

連絡先

まあち 04-2941-2111

最初の頃は、おしゃべりが中心でした。最近は、介護保険制度や成年後見制度・地域包括支援センター・緊急対応ノート・オレオレ詐欺などの勉強会も行いました。1年に1~2回食事会もあります。参加者は7~8名でスタッフ(ボランティア)が2~3名です。今年は脳トレ・折り紙・手芸・筋トレを計画しています。(増田アツミ 坂井みよ)

## 経費削減のご協力のお願い!

「おひさま」の印刷と郵便に毎回数万円かかっています。メールで配信出来れば、費用の削減につながります。また、ニュースの配信回数も多くすることが出来ます。お手数をかけして恐縮ですが、ご協力頂ける組合員の方は、以下にメールアドレスをお知らせ下さい。ぜひ、宜しくお願ひします。

[sasaeai-saitama@amail.plala.or.jp](mailto:sasaeai-saitama@amail.plala.or.jp)

## さいたま高齢協の事業所

まあち 〒359-1103 所沢市向陽町 2001-3

訪問介護 04-2941-2755

ケアプラン 04-2941-2080

ふれあい岩槻 〒339-0057

さいたま市岩槻区本町 1-5-33

訪問介護 048-749-5773

働く仲間募集





映画上映サークルをつくりませんか?  
**わたしのおすすめ映画**

**「白バラの祈り」** ゴッティ・シヨル、最期の日々  
**第5回ベルリン国際映画祭最優秀監督賞・最優秀女優賞受賞**  
**2005年ドイツ映画**  
**平山清一さん(上尾・理事)**

近年新たに発見された尋問記録や関係者の証言等々の事実に基づく第二次世界大戦中のナチス・ドイツを題材としたレジスタンス運動の作品。戦争末期、音楽好きの普通の女子大生に過ぎなかった21才のミュンヘン大学の学生ゾフィー。彼女は非暴力の反政府組織「白バラ」の紅一点だった。ナチス・ドイツの第三帝国とヒトラーを批判したピラを「白バラ」の兄と仲間とともに大学構内で撒いてゲシュタポに拘束される。

し、決して仲間の存在を明かさな。学生といっても容赦はない。3日間の尋問とわずか1日の裁判で国家反逆罪という罪で全員死刑の判決を受けてしまう。

なぜ彼女が、なぜ兄と共に活動に加わり、21歳の命を散らせたのか。映画はドキュメンタリー映画のようにその「最期の数日間」を描く。尋問や裁判の様子は史実に忠実に重々しいが、ベテラン尋問官との緊迫した問答はまさに劇的で時間が経つのも忘れずに見入ってしまう。

拷問や暴力のシーンは全くない、ただ綺麗な部屋の中で尋問官は真面目にゾフィーの話や主張に耳を傾ける。そして「白バラ」の情報を聞き出すために取引を提案するが、ゾフィーは自分の良心に従い、恐怖に打ち克ち信念を貫き通す。そして刑執行前の父と母との別離のシーン、ああ、なんて悲しいのか。しかし、心強く父は娘を褒め称える。お涙頂戴の日本映画のようにはならない毅然としたドイツ映画。流石である。

が、何といっても衝撃はラストの数秒だ。ゾフィーと兄、友人が次々と刑が執行される。絞首刑や銃殺刑ではない。なんと斬首刑、ギロチンである。映像は無く、音声のみ。ブラックアウトした画面は何も映っていないからこそ、恐怖と悲しみと寂寥の思いが観る者に押し掛かってくる。

ドイツ人がここまで鮮明に自国の恥部であったヒトラー崇拜を映画に描くことに脱帽。日本ではここまで当時の体制を批判した映画は作らない

**組合員募集**

**私たちの仲間になりませんか!**  
 私たちは「仕事」「福祉」「生きがい」活動に取り組み高齢社会を支え合うために生まれた生活協同組合です。  
 年齢に関係なく、気軽にどなたでも協同組合に入れます。老若男女が支え合う「福祉のまちづくり」にあなともご一緒に!

**【加入にあたって】**  
 ①所定の加入申込書  
 ②出資金(一口千円から)が必要です。  
 お申込み・お問い合わせ  
 04(2941)2111  
 年会費、月会費は不要です。



白バラの祈り  
 SOPHIE SCHOLL - DIE LETZTEN TAGE  
 ヒトラー政権に立ち向かった二歳の女性ゾフィーの奮闘と世界中の観客がすすり泣いた感動の記録

だろう、いや作れないだろう。収録されているゾフィーが外を覗く際に流れる切ない音楽が琴線に触れ、急いでサウンドトラックCDを入手してしみり聴いた単身赴任地であった新潟の我が部屋を思い出します。皆さんに観て、そして論じて欲しい、そんな名作です。

**【編集後記】**前号の編集後記で、「おひさま」は、組合員の皆さんをつなぐニュースレターの役割であるべきだと書いたのですが、上手く記事を集められないでいます。コロナ禍で活動を自粛されている方も多いと思います。暮らしの変化や工夫を交流できればと考えています。▼東日本大震災から10年となり、宮城高齢協の仲間にご原稿をお願いし、快く引き受けて頂きました。忘れてはならない記憶です。▼新入職員の紹介記事が掲載できていません。次回の総代会特集(5月)の中で掲載します。